俳諧

内容理解 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 次の句について、①季語、②季節を、③切れ字のある句については切れ字を、それぞれ答えなさい。

(1) かれ枝に烏のとまりけり秋の暮（二七六・2）
① ［　　］ ② ［　　］ ③ ［　　］

(2) 山路来て何やらゆかしすみれ草（二七六・4）
① ［　　］ ② ［　　］

(3) 旅に病んで夢は枯野をかけめぐる（二七六・6）
① ［　　］ ② ［　　］

(4) 春の海ひねもすのたりのたりかな（二七七・2）
① ［　　］ ② ［　　］ ③ ［　　］

(5) 五月雨や大河を前に家二軒（二七七・3）
① ［　　］ ② ［　　］ ③ ［　　］

(6) 牡丹散つてうち重なりぬ二三片（二七七・4）
① ［　　］ ② ［　　］

(7) 有明や浅間の霧が膳をはふ（二七七・6）
① ［　　］ ② ［　　］ ③ ［　　］

(8) これがまあつひの栖か雪五尺（二七七・8）
① ［　　］ ② ［　　］ ③ ［　　］

(9) 痩せ蛙まけるな一茶これにあり（二七七・10）
① ［　　］ ② ［　　］

2 「かれ枝に」（二七六・2）の句について説明した次の文の空欄にあてはまる適当な語句を補って文を完成させなさい。

［　A　］の句を最後に置くことで、［　B　］に黒々とした、［　C　］がとまっている景色が醸し出す気分が、［　A　］の気分として印象付けられている。

3 「山路来て」の句（二七六・4）について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 「すみれ草」の印象として適当なものを次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

［　　］

ア 濃い紫の色彩が周囲を圧倒している。
イ ひっそり自生する姿がけなげである。
ウ 人の心を奪う妖艶さを漂わせている。
エ 大切に育てられた気品を発している。

(2) この句の主題についてまとめた次の文の空欄にあてはまる適当な言葉を補って文を完成させなさい。

旅の途中の山路で見つけた［A　　］の［B　　］に焦点が絞られている。

4 「旅に病んで」の句（二七六・6）は、作者の辞世の句とされている。このときの作者の心境を、「夢は枯野をかけめぐる」に着目して説明しなさい。

5 「春の海」の句（二七七・2）について、「のたりのたり」は表現上どのような効果があるか、説明しなさい。

6 「五月雨や」の句（二七七・3）について、「家二軒」の与える印象として適当なものを次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　強者同士が力を競うかのように建つ。
イ　強者が弱者を支えるかのように建つ。
ウ　強者が弱者を見下すかのように建つ。
エ　弱者同士が支え合うかのように建つ。

7 「牡丹散つて」の句（二七七・4）について、「二三片」とは、何を表しているか、答えなさい。

8 「有明や」の句（二七七・6）について、遠景の「浅間」と近景の「膳」とを結び付ける役割を果たしているものは何か。その情景を含めて説明しなさい。

9 「これがまあ」の句（二七七・8）について、故郷を「つひの栖」と言っているのはなぜか、説明しなさい。

10 「痩せ蛙」（二七七・10）の句について、「まけるな」と口語調の表現を用いていることで、どのような効果が生まれているか、説明しなさい。